

会 報

No.48 (1994年6月)

目 次

◆1993年度会計収支決算報告	1
◆1993年度会計監査報告	1
◆日本分子生物学会第8期第4回評議員会報告	2
◆第17回年会の準備にあたって	5
◆第17回(1994年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その2)	6
◆学会費(年度会費)納入についてのお願い	12
◆日本分子生物学会への入会申込みの手順	12
◆次期評議員選挙と会員名簿について	12
◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について	12
◆日産科学振興財団研究助成プログラムの改訂について	14
◆財団法人持田記念医学薬学振興財団各助成について	15
◆各種会合のお知らせ	16
○講習会「生命の情報システムに学ぶ」のご案内	16
○1994年度講習会「脳・心・コンピュータ」のご案内	17
○第5回電子顕微鏡サマースクール1994のご案内	18
○第67回日本生化学会大会のご案内	19
○第45回タンパク質構造討論会のご案内	20
○ワークショップ「DNA複製と染色体分配」のご案内	20
○第10回細胞内蛋白質分解に関する国際会議(第10回ICOP会議)のご案内	21
○第10回形態科学シンポジウムのご案内	21
○日本癌学会シンポジウムのご案内	22
○第1回アンチセンス国際会議のご案内	22
○千里ライフサイエンスシンポジウム 「AIDS—From Molecular Biology to Treatment—」のご案内	23
◆日本学術会議だより (No. 32)	24

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

ポスター発表分類表 (Classification of poster sessions)

(I) 分子構造 (Molecular structures)

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| (a) 遺伝子 (Genes) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) ゲノム (Genomes) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 蛋白質 (Proteins) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) 核酸 (Nucleic acids) | (4) その他 (Others) |
| (e) 糖 (Carbohydrates) | |
| (f) 脂質 (Lipids) | |
| (g) 分子集合 (Molecular assemblies) | |
| (h) その他 (Others) | |

(II) 分子機能 (Molecular functions)

- | | |
|---|------------------------------------|
| (a) 複製 (Replication) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 組換え、修復 (Recombination and repair) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 転写 (Transcription) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) RNA プロセッシング・修飾・分解
(RNA processing, modifications and degradation) | (4) その他 (Others) |
| (e) 翻訳 (Translation) | |
| (f) 蛋白質のプロセッシング・修飾・分解 (Protein processing, modifications and degradation) | |
| (g) 輸送と局在化 (Transport and localization) | |
| (h) その他 (Others) | |

(III) 細胞の構造 (Cellular structures)

- | | |
|---|------------------------------------|
| (a) 染色体および核構造
(Chromosomes and nuclear structures) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 生体膜 (Membranes) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 細胞質および細胞質構造
(Cytoplasm and cytoplasmic structures) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) オルガネラ (Organelles) | (4) その他 (Others) |
| (e) その他 (Others) | |

(IV) 細胞の機能 (Cellular functions)

- | | |
|---|------------------------------------|
| (a) エネルギー (Bioenergetics) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 運動 (Cell motility) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) シグナル伝達 (Signal transduction) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) 細胞分裂・細胞周期
(Cell division and cell cycle) | (4) その他 (Others) |
| (e) ストレス応答 (Stress response) | |
| (f) 細胞形質転換 (Transformation) | |
| (g) アポトーシス (Apoptosis) | |
| (h) その他 (Others) | |

(V) 高次生命現象 (Biological phenomena : Multi-cellular systems)

- | | |
|---|------------------------------------|
| (a) 細胞間認識
(Cell-cell interactions and recognition) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 発生および分化
(Development and differentiation) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 免疫系 (Immune systems) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) 神経系 (Nervous systems) | (4) その他 (Others) |
| (e) 老化 (Aging) | |
| (f) 癌 (Cancer) | |
| (g) 遺伝病 (Genetic diseases) | |
| (h) その他 (Others) | |

(VI) 分子生物学の方法・技術 (Methods and techniques)

- | | |
|---|------------------------------------|
| (a) DNA 工学 (DNA technology) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) RNA 工学 (RNA technology) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 蛋白質工学 (Protein technology) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) 細胞工学 (Cell technology) | (4) その他 (Others) |
| (e) トランスジェニック生物 (Transgenic animals and plants) | |
| (f) 病因解析および診断 (Diagnosis) | |
| (g) その他 (Others) | |

(VII) 生命情報科学・理論 (Bioinformatics and theories)

- | | |
|--------------------------------|------------------------------------|
| (a) 分子進化 (Molecular evolution) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) その他 (Others) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| | (4) その他 (Others) |

◆1993年度会計収支決算報告

1993年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

(第8期 会計幹事 釣本敏樹)

1993年度日本分子生物学会収支決算書 (1993年4月1日～1994年3月31日)

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
学 会 費	11,340,000	14,656,600	入会金 973,000 正会員 10,306,000 学生会員 3,138,500 外国会員 239,100
賛 助 会 費	1,080,000	1,050,000	
預 金 利 子	500,000	554,951	
雑 収 入	80,000	42,665	
小 計	13,000,000	16,304,216	
前 年 度 繰 越 金	1,000,000	△179,503	
合 計	14,000,000	16,124,713	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
事 業 費	3,000,000	3,692,560	第16回年会 “ (財)日本学会事務センター プログラム, 会報発送費
会 報 発 行	1,100,000	1,729,830	
プ ロ グ ラ ム	700,000	962,730	
特 別 講 演 謝 金	200,000	0	
第17回年会補助	1,000,000	1,000,000	
評 議 委 員 会 費	800,000	1,486,383	
委 員 会 費	800,000	1,486,383	
役 員 選 挙 名 簿 作 製 費	0	0	
業 務 委 託 費	5,000,000	6,861,114	
一 般 事 務 費	4,115,000	5,183,352	
用 品 費	5,000	1,390	
印 刷 費	150,000	300,183	
通 信 費	3,300,000	4,812,719	
庶 務 事 務 費	650,000	18,540	
雑 費	10,000	50,520	
予 備 費	300,000	0	
小 計	13,215,000	17,223,409	
次 年 度 繰 越 金	785,000	△1,098,696	
合 計	14,000,000	16,124,713	

◆1993年度会計監査報告

1994年4月22日、会計帳簿、預金通帳、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第8期会計監査

小 川 英 行 ㊞

品 川 日 出 夫 ㊞

◆日本分子生物学会第8期第4回評議員会報告

日 時：1994年5月7日(土) 14:00~17:00

場 所：大阪、千里ライフサイエンスセンター

5月7日評議員会が開催され、拡大幹事会、将来計画委員会での議論をもとに、今年の学会の活動計画の検討を行いました。

出席者：吉川 寛（会長）、石浜 明、岩淵雅樹、小川智子、大島靖美、岡崎恒子、志村令郎、
関口睦夫、高浪 満、豊島久真男、富沢純一、本庶 佑、山本正幸、大石道夫（編集幹事）、
釣本俊樹（会計幹事）、小笠原直毅（庶務幹事）、三浦謹一郎（将来計画委員）

議 事：

- (1) 第3回評議員会および第16回総会議事録の確認を行った。
- (2) 会長・幹事より、以下の会務および本年度活動計画の報告を受け、了承した。
 1. 1993年度会計収支決算および会計監査報告について。
 2. 5月18日に分子生物学研連の日本学術会議会員推薦人会議が開催されること。
 3. 日本分子生物学会からの科研費審査委員候補者の推薦のために、全会員を対象にした評議員による選挙を7月中に行う。順番をつけた10名連記の投票とし、得票上位者から、第2段審査委員候補、第1段審査委員候補とし、同一大学の重複等の問題が生じた場合順次候補者を繰り上げる。
 4. 次期評議員選挙を年内に行うため、11月上旬に年会プログラム・会員名簿と共に投票用紙を発送し、投票締切りを12月5日とする。15日の総会までに開票作業を終了し、総会で新評議員を紹介する。
なお、会員名簿は8月31日付で作成し、経費削減のために1ページに従来の2倍の会員を掲載することとした。また、FAX番号等の掲載のための調査は来年度に検討することとした。
 5. 経費削減のため会報を年2回とすることも検討したが、2月号を発行しないと総会報告が半年遅れの6月になること、2月号については定型郵便物として発送が可能であり、必要経費が100万円以下であることを考慮し、本年度も会報発行を年3回とする。また、各種研究助成の案内を各号に掲載し周知を図ることとした。
 6. 「日本分子生物学会賛助会員加入についてのお願い」を78社へ発送し、4月27日現在で11社11口の会員増があり、計38社45口となった。
なお、評議員に「日本分子生物学会賛助会員加入についてのお願い」および発送先リストを送付し、一層の賛助会員の増加に努力することとした。
 7. 各種研究助成推薦結果について
- (3) 第17回年会の準備状況について、石浜第17回年会長より以下のような報告を受けた。
 1. 午前中はミニシンポジウム、午後は特別講演、ポスターセッション、ミキサーという日程とし、懇親会は今回行わないこととした。
 2. ミニシンポジウムについては、一般会員からの提案を優先し、計38題とした。
 3. 特別講演は毎日2会場、各2演題、計16人とした。うち半数は外国からの演者とした。
 4. ポスターセッションでは、ブロック別に短い口頭発表の時間を作る計画である。
 5. データーベース化の要請を考慮し、講演要旨集に英文のtitle, authorを加えることにした。
 6. 年会前日に自治体主催の一般市民向け講演会が予定されており、演者を準備する等協力することとした。
- (4) 第18回年会の準備状況について、会場は名古屋国際会議場、開催時期としては12月初旬を予定し、準備を進めているとの報告を、岡崎第18回年会長より受けた。
- (5) 英文国際誌刊行について
 1. 大石編集幹事より学会としての支援についての報告を受けた。

- a. 学会としては一定の経済的支援を行うこと、よい論文を投稿することで新雑誌を支え、内容については富沢編集長に一任するという確認のもとに準備を進めている。
 - b. 経済的支援としては、2,000万円を目標とした基金（代表 松原謙一氏）を検討中であるが、学会からの支援金（400万円）・内藤出版援助金（200万円）・第16回年会からの寄付（100万円程度）により当面の事業は可能であるため、雑誌の具体的な形を会員に示した段階で支援基金を訴えることを考えている。
 - c. 学会員の特典として、購読料の会員割引を予定している。また、会費と同時に購読料を振込むことも検討する。
2. 富沢編集長より刊行の準備状況について説明を受けた。
 - a. 誌名については、「Genes and Cells: devoted to molecular and cellular mechanism」という案が有力になっている。
 - b. Senior Editor としては、国内2名、国外6名が了承しており、今後数名を追加したい。また、6月に米国で Senior Editor の打合せを行う予定である。
 - c. 更に、Transmitting Editor として、国内15名、国外15名程度の方に依頼を行いたい。
 - d. 1995年6月（Bi-monthly の場合）あるいは1995年9月か1996年1月（Monthly の場合）創刊をめざして、論文・雑誌のスタイルの検討を開始している。
 3. 以上の報告をもとに意見交換を行い、学会からの支援金については、使途、期間を限らずに運用してもらい、適当な形で雑誌発刊に関わる会計報告をお願いすることを確認した。
- (6) 将来計画委員会の活動方針について
1. 石浜委員長より以下の活動方針についての報告を受けた。
 - a. 現在の日本分子生物学会の規模と社会的影響力を考えると、PD 制度、科研費のありかた、次代の研究者養成と理科教育の問題等について学会として社会的発言を行うべき時期であり、そのための検討を行う。
 - b. 学会に属する若い研究者の活性化を図るために、講習会等の新たな活動を企画する。また、その一環として学会賞の創設も検討する。
 - c. 年会のあり方について、基礎生物学分野の学会との連合年会の可能性を検討する。
 - d. 学会の現状に見合った役員構成について検討する。
 - e. 日本学術会議分子生物学研連の活動内容について検討する。
 - f. 以上の問題について、具体案がまとまったものから順次評議員会に提案を行う。
 2. 以上の報告をもとに意見交換を行ったが、国立大学・研究所の職員の評価に各種学術賞の受賞歴、新聞報道等が利用されており、そうした評価法の問題点を学会として表明する必要があるとの議論が行われた。

また、三浦将来計画委員から、日本分子生物学会の20周年記念事業として Blackwell 社「分子生物学事典」の翻訳を行うことを検討したいとの提案があった。
- (7) 第19回年会（1996年）の開催地および開催方式について、北海道において日本生化学会大会と連続して行うことが検討されていることが、吉川会長より報告され、討論を行い、北海道の会員により具体的な検討内容の報告を依頼し、それに基づき検討を行うこととした。
 - (8) 各種学術賞候補者の推薦について、この1年間推薦依頼がないため、学会として積極的に推薦の方策を検討したが、評議員に周知し積極的な推薦を依頼することとした。
 - (9) 名誉会員の推薦について、何らかの推薦基準が必要ではないかという提案があり、庶務幹事が検討し次回の評議員会で議論することとした。
 - (10) 吉川会長より、評議員選挙の管理委員を、関西地区の3会員に委嘱したいとの報告があり、了承された。

○各種研究助成などへの本学会推薦について

東レ科学振興会および日産科学振興財団より、本学会推薦の下記2名について1994年度研究助成が決定された旨連絡があった。

第34回東レ科学技術研究助成

児玉龍彦（東大・医）「マクロフェージスカベンジャー受容体の構造と機能」

第20回日産科学振興財団学術研究助成

三谷絹子（東大・医）「慢性骨髄白血病急性転化の分子機構の解析」

第17回年会の準備にあたって

「会報」No.47(1994年2月号)でご案内したように、第17回年会は、本年(1994年)12月13日(火)から16日(金)まで、神戸市ポートアイランドの神戸国際展示場および国際会議場で開催いたします。年会参加者数が4,500名と予想され、地方での年会運営が困難になってきております。そのため、今回初めて、組織委員会が地方を離れて年会開催のお世話をすることになりました。困難な事情はありますが、その中でも本学会発足時からの学問研究を第一義とする精神に沿った年会を企画したいと努力いたしました。

以下は第17回年会の企画の主旨です。

- 1) ポスターによる一般研究発表を中心とした年会といたします。そのために、ポスター発表者全員による短時間の口頭による説明を実施いたします。ポスター会場を内容に沿って分割し、ブロック単位で進行係(口頭発表の座長に相当)の指示に従って、数分間(演題数によりますが3分程度)の説明をしていただきます。
- 2) 研究内容に沿って発表を分類し(申込みに分類コードをつけていただきます)発表数の多い分野(例えば、転写)については、4日間に分散いたします。また、ポスター会場を内容に沿ってブロックに分割いたします。
- 3) 懇親会を中止し、代ってポスター会場で、ポスター討論に引続きミキサーを実施いたします。ミキサー中にもポスター展示を続けます。なお、ミキサー参加費は要りませんが、飲物などの費用を一部負担していただくことがあります。
- 4) 特別講演を2会場で4日間行います。分子生物学に関連した各分野を代表する講師から研究の全体像を学ぶ機会にしたいと考えております。
- 5) シンポジウムを4日間 午前中3時間で企画いたします。昨年の第16回年会場で、一般会員の皆様から募集した企画を最大限採択いたしました。加えて、外国からの演者招待を条件として、本学会関連重点領域研究班と共催のシンポジウムを準備いたしました。従って、共催シンポジウム会場だけは、会員外にも公開いたします。なお、シンポジウム発表の使用言語の選択は、オーガナイザーに一任いたしました。
- 6) 発表要旨の演題、発表者名、所属を、日本語・英語両方で記入していただくことにいたしました。外国人参加者の便宜を計るとともに、国際データベース登録を予定しております。そのために、講演要旨集をA4判といたします。なお、シンポジウムの要旨については、発表時の使用言語と要旨記載言語を一致させます。
- 7) 学会外への分子生物学の知識と考え方を紹介するための市民講座を開きます。これは、兵庫県・神戸市からの財政的支援への謝礼でもあります。

これらの企画は昨年度に続く、学会形式化を避けるための試みです。併せて、会員増による経費増加にも拘わらず、参加費を値上げせず年会を開催するための努力の一環でもあります。会員の皆様のご理解を期待いたします。

第17回日本分子生物学会年会
年会長 石 浜 明
〒411 静岡県三島市谷田1,111
国立遺伝学研究所
Fax 0559-71-3651

年会企画についてのご意見・ご希望があれば、年会長宛にお知らせ下さい(組織委員会へ正確に伝達するために、文書でご提出下さい)。なお、年会開催にあたってご協力いただいた方々へのお礼状は、昨年同様取り止めさせていただきます。

◆第17回（1994年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2）

第17回年会を1994年12月13日（火）～16日（金）の4日間、兵庫県神戸市 ポートアイランドの神戸国際展示場および国際会議場で開催します。年会スケジュールのあらまはは下記の通りです。

一般発表

すでに会報No. 47（1994年2月）でお知らせしたように、一般発表はすべてポスターといたします。後記の「発表の申込み」の要領に従い申込み下さい。国際化に対応して、今回より題目・発表者・所属を日本語・英語で並記していただきます。それに伴い、講演要旨集をA4判といたします。

ポスター展示時間は、9時より18時30分まで（4日目は、17時30分まで）の予定です。今回は、ポスター会場のブロック単位で、演題番号順に、ポスター発表者全員に短時間（1人数分間の予定）で口頭説明をしていただきます（15時-16時の予定）。発表者は、その後プログラムで指定する時間内はポスターの前に立ち、質問・討論に応じて下さい。なお、3日目までは、引続き同じ会場でミキサーを行います。その間もポスターは掲示されますので討論に活用下さい。

ポスター掲示のスペースは、高さ150cm、幅150cmを予定しています。なお、終了後18時30分-19時（4日目は17時30分-18時）の間にポスターを取外して下さい。

シンポジウム

シンポジウムは会員からの提案に加えて、今回は、外国人講演者を含めることを条件に、分子生物学関連の科学研究費重点領域研究班からの提案を募集しました。全ての提案の中からプログラム委員会で選考したものを、4日間 午前中9時より12時まで行います。

シンポジウム採択課題と世話人は、別表の通りです（5月15日現在）。

特別講演

4日間とも13時15分より14時45分（ただし、3日目は14時00分）まで行います。

講演者は下記の通りです（5月15日現在）。

[シリーズ1]

Walter J. Gehring	University of Basel, Basel, Switzerland
Martin Gellert	National Institute of Diabetes, Digestive & Kidney Diseases, NIH, USA
Jerard Hurwitz	Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, New York, USA
Richard Losick	Harvard University, Cambridge, USA
Robert Roeder	Rockefeller University, New York, USA
Charles Yanofsky	Stanford University, Stanford, USA
他（交渉中）	

[シリーズ2]

伊藤 正男	理化学研究所
江橋 節郎	生理学研究所
大沢 文夫	愛知工業大学
多田 富雄	インターナショナル・イムノロジー
西塚 泰美	神戸大学
古谷 雅樹	日立製作所基礎研究所
他（交渉中）	

バイオテクノロジーセミナー

第1日目から第4日目までの午後、バイオテクノロジーセミナーを行います。詳細はプログラムならびに講演要旨集で紹介いたします。

第17回 日本分子生物学会年会 日程表

		8:30 9:00	12:00 13:15	14:45 15:00	17:00 17:30	18:30 19:00	
12月13日(火)	国際展示場	受付	シンポジウム (2会場)	特別講演 (2会場)	テクニカルセミナー	ポスター撤去	
	国際展示場	受付	シンポジウム (6会場)		ミキサー ポスター説明		
		展示会					
12月14日(水)	国際展示場	受付	シンポジウム (4会場)	特別講演 (2会場)	テクニカルセミナー	ポスター撤去	
	国際展示場	受付	シンポジウム (6会場)		ミキサー ポスター説明		
		展示会					
12月15日(木)	国際展示場	受付	シンポジウム (4会場)	特講(2会場) 総会	テクニカルセミナー	ポスター撤去	
	国際展示場	受付	シンポジウム (6会場)		ミキサー ポスター説明		
		展示会					
12月16日(金)	国際展示場	受付	シンポジウム (4会場)	特別講演 (2会場)	テクニカルセミナー	ポスター撤去	
	国際展示場	受付	シンポジウム (6会場)		ポスター説明		
		展示会		展示物撤去			
国際会議場	受付	シンポジウム (6会場)					

ポスター説明時間は、15:00～17:30です。

ポスター撤去時間は、18:30～19:00（最終日は、17:30～18:00）です。

発表の申込み

1. ポスター発表の代表者は、本年度会費既納の本学会会員に限り、1人1題とします。なお、他のポスター発表の連名者、シンポジウムの発表者となることは差し支えありません。
2. 発表申込み締切日 1994年8月25日（木）必着
3. 申込書送付先

〒565 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西 内
第17回日本分子生物学会年会 係
Tel: (06) 873-2301 Fax: (06) 873-2300

4. ポスター発表の申込みは、綴込みの用紙（発表申込書、プログラム編集用・人名索引編集用カード、発表要旨、受取書、発表演題採否通知書）に必要な事項を記入・印字し、講演要旨のコピー3部（B5判）を添え、簡易書留便で年会係までお送り下さい。また、プログラムの編集などについて希望があれば、プログラム編集用カードの通信欄に記入して下さい。ただし、希望に沿えないこともあります。なお、別の手紙を添付または同封しないで下さい。
5. ポスター発表の代表者の本年度会費納入を確認するために、申込書の指定の欄に、会費払込みの際に郵便局等が発行する領収書のコピーを貼付して下さい。

なお、入会手続き中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、日本学会事務センター（東京）より会費の請求書が送付されますのでご注意ください。会費未納の場合には、発表申込みを受理できませんのでご注意ください。

6. ポスター発表演題受取書は、申込用紙到着後に代表発表者の本年度会費納入を確認の上、返送されます。採否の通知は、ポスター発表の申込みの形式および内容を審査の上、返送いたします。ポスター発表の日時と展示場所については、プログラムでお知らせします。
7. 発表申込用紙など記入上の注意
 - a. 用紙は切り離さずに郵送して下さい。
 - b. *印の項には記入しないで下さい。
 - c. 要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサ（ただし、出来るだけレーザープリンタを使用下さい）またはタイプライターで直接印書するか、または印書したものをていねいに糊付けし下さい。代表発表者の前の左肩には○印をつけて下さい。所属は略称を用いて下さい。また、鮮明なコピー3部（B5判）を添付して下さい。
 - d. 「演題」「発表者氏名」「所属」を日本語・英語で並記して下さい。
 - e. ポスター発表の要旨は、日本語・英語どちらでも結構です。シンポジウム講演要旨は、口演に使用する言語に一致させて下さい。なお、要旨集掲載の際の縮小率は約58%です。ご注意ください。
 - f. 要旨に従って、プログラムを編集・印刷します。「演題」「氏名」「所属」を講演要旨に記載のもの（日本語の部分）と同じに印書または貼付して下さい。なお、同一研究グループで複数の関連演題を発表する場合に、ポスターの掲示の順序などに希望があれば、その旨をプログラム編集用カードの通信欄に記入して下さい。
 - g. 人名索引編集用カードには、演者および連名の方全てについて1枠に1名ずつ記入して下さい。なお、外国人の方は、カタカナでの表記を避け、アルファベットでファミリーネーム（カンマ）、ファーストネーム、ミドルネーム（イニシャル）の順で記入して下さい。また、大文字と小文字についても明瞭に使い分けて下さい。
 - h. 発表申込書には、「演題」「氏名・所属」と共に、代表者1名の氏名、住所、電話番号、Fax番号を記入して下さい。

- i. ポスター発表の内容について、分類表から希望するもの2項目を選び、希望順に番号とアルファベットで記入して下さい(例：I-b-1, III-a-2など)。昨年に引続き研究内容中心の分類を採用します。なお、内容に沿って、ポスター展示ブロックを配置するよう努力いたします。
- j. 受取書のはがきには「演題」、発表演題採否通知書のはがきには「演題」と「発表希望分類」を記入して下さい。また、裏面には宛名を記入し、50円切手を貼って下さい。切手が貼られていない場合には返送しません。

参加申込みおよび参加費

1. 年会参加費は、前納(締切 10月31日)の場合は一般会員5,000円、学生会員4,000円です。11月1日以降の送金から当日の受付までは、それぞれ6,000円、5,000円、非会員7,000円となりますのでご注意ください。
参加費には、講演要旨集1部の代金が含まれています。なお、講演要旨集のみ希望の方には、会員3,000円(ただし、会員1人につき1部のみ)、非会員5,000円でお届けします。
2. 本年度は、懇親会は行わず、ミキサーを第1、2、3日目に国際展示場1号館1階および2階において17時から18時30分まで行います。参加費は要りませんが、飲物代等を一部負担していただくことがあります。
奮ってご参加下さい。
3. 年会参加費、講演要旨集代金の払込みには、同封の振替用紙をご使用下さい。
同封の用紙を使用されない場合には必ず通信欄に、第17回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所・氏名をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金下さい。
なお、整理の都合上、申込者1人につき1枚の振替用紙をご使用下さい。
口座番号 大阪 2-22357
加入者名 (財)日本学会事務センター大阪事務所
(学会費の振替用紙とは口座が異なりますのでご注意ください。)
4. 10月31日までに参加費を払込まれた方には、年会前に講演要旨集を郵送します。11月1日以降に払込まれた場合には、年会会場にて講演要旨集をお渡しすることになりますのでご注意ください。
5. 参加費払込みの領収書は、原則として発行しませんのでご了承下さい。念のため、郵便局が発行する領収書を保管しておいて下さい。
6. 年会期間中の宿泊、JR券・航空券等の手配については、JTB 神戸三ノ宮支店 E & C センター 担当 枚田(ひらた)、早藤(はやふじ)、松山(まつやま) (Tel: 078-231-4422) よりご案内します。
7. 第17回年会に関する問合せ先
学会センター関西 内
第17回日本分子生物学会年会 係
Tel: (06) 873-2301 Fax: (06) 873-2300

シンポジウム名 (順不同)

オーガナイザー

発生と転写制御*	近藤 寿人、林 茂生
植物の器官形成と代謝発現の制御ネットワーク*	中村 研三、岡田 清孝
RNA レプリコンの宿主因子*	野本 明男
分子生物学データベースの新しい流れ*	金久 實、中井 謙太
蛋白質立体構造のシグナル伝達機構と転写調節機構における役割*	西村 善文、森川 耿右
MHC 抗原による自己・非自己識別	猪子 英俊
生物の信号受容および信号伝達の普遍性	蓮沼 仰嗣
-新しい信号受容および伝達系の存在をさぐる-	
DNA ウイルスを用いた転写調節研究の展開	藤永 憲、小池 克郎
遺伝子発現調節 -転写因子の活性化-	半田 宏、石井 俊輔
哺乳動物におけるゲノム伝達の制御 -生殖系列細胞と遺伝子機構-	高木 信夫、中辻 憲夫
真核生物染色体DNA 複製の分子メカニズム	杉野 明雄
遺伝的組換えの制御 -関与する染色体構造と機能の普遍性-	小川 英行、小川 智子
系統進化への分子生物学的アプローチ	宮田 隆、岡田 典弘
高次 DNA 構造からみた遺伝子の機能制御	大山 隆、菊池 韶彦
C. エレガンスの分子生物学	香川 弘昭、細野 隆次
生体膜のエネルギー転換系の分子生物学	吉田 賢右、前田 正知
ダイナミックミューテーションと遺伝性疾患	池田 穰衛、辻 省次
癌研究の新局面	吉田 光昭、山本 雅
シグナル伝達の普遍機構	大野 茂男
ゲノム解析の発展 -ゲノム構造解析から何がわかるか-	磯野 克己
選択的蛋白分解の分子機構とその意義	市山 新、田中 啓二
細胞レベルからみた老化の分子生物学	高野 利也
核の機能構造の分子生物学	丹羽 修身、広瀬 進
微生物の細胞分化 -転写制御を中心に-	河村富士夫、小林 泰夫
植物におけるシグナル応答と遺伝子発現のネットワーク	篠崎 一雄、進士 秀明
「見る」分子生物学 -新しい顕微鏡技術によるブレイクスルー-	柳田 敏雄、嶋本 伸雄
生物モデル系を用いた神経系の可塑性研究の新しい展開	御子柴克彦、山元 大輔
血液細胞の発生、分化およびその異常の分子機構	本庶 佑、西川 伸一
発生における遺伝子組換え -トランスジェニック動物を用いた解析-	勝木 元也
真核生物におけるストレスタンパク質の機能*	遠藤斗志也、河野 憲二
細胞質分裂の分子機構*	馬淵 一誠
光合成生物の環境応答*	村田 紀夫、佐藤 公行
RNA 機能のフロンティア*	渡辺 公綱、横山 茂之
ゲノム進化の機構	池村 淑道、五條堀 孝
突然変異制御の分子機構	関口 睦夫
細胞複製装置のダイナミクス	永井 和夫、平賀 壮太
モデル生物実験系による生体高次機能解析*	堀田 凱樹、西田 育巧
造血幹細胞制御の分子機構*	北村 幸彦、新井 賢一

*重点領域研究班共催シンポジウム

受付番号*

ポスター発表

発表希望分類 (第1希望) _____, _____ (第2希望)

(プログラム編集用：日本語部分)

演題名
氏名
(所属略記)

大腸菌RNAポリメラーゼの構造と機能
○石浜 明¹, R.E. Glass², 吉川 寛³ (¹遺伝研・分子遺伝, ²Univ. Nottingham・Dept. Biochem., ³奈良先端大・バイオサイエンス)

演題名
氏名
(所属略記)

大腸菌RNAポリメラーゼの構造と機能
○石浜 明¹, R.E. Glass², 吉川 寛³ (¹遺伝研・分子遺伝, ²Univ. Nottingham・Dept. Biochem., ³奈良先端大・バイオサイエンス)

Title
Name
(Affiliation)

Structure and function of *Escherichia coli* RNA polymerase
○ A. Ishihama¹, R.E. Glass² and H. Yoshikawa³, ¹Nat. Inst. Genet., Dept. Mol. Genet., Mishima, Shizuoka 411, ²Univ. Nottingham Med. Sch., Dept. Biochem, Nottingham NG7 2UH, UK, and ³Adv. Inst. Sci. Tech., Grad. Sch. Biol. Sci., Ikoma, Nara 630-01.

大腸菌RNAポリメラーゼホロ酵素は、RNA合成活性をもつコア酵素とプロモーター認識活性をもつシグマサブユニットから形成されている。サブユニットの分担機能の同定と、その機能制御機構を解明する目的で...

◆学会費（年度会費）納入についてのお願い

1. 平成6年度分および未納分の学会費を3月中旬にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を日本学会事務センター（東京）へ提出して下さい。

正会員学会費 4,500円

（但し、在学証明書を提出したときは3,000円）

学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会の発表申込みには、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。発表を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会への入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申込み下さい。所定の書式をお送りいたします。

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

（財）日本学会事務センター・会員業務

日本分子生物学会 係

Tel: (03) 5814-5810 Fax: (03) 5814-5825

◆次期評議員選挙と会員名簿について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって第9回評議員選挙が12月に行われます。この選挙のための会員名簿が今年7月31日現在のデータをもとに発行される予定ですので、勤務先や住所の異動があった場合は速やかに事務局（上記）までお知らせ下さい。

◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について

学術賞および研究助成金の本学会よりの推薦は本学会選考委員の意見にしたがって行いますが、そのために必要な資料部数および期限は次の通りです。

1. 資料：①本申請に必要な申請資料（オリジナル+募集要項に記載されている部数のコピー）および論文
②本学会の5名の選考委員用に上記申請資料のコピー5部（論文は不要）
2. 期限：本申請の概ね1か月前までに〒630-01 奈良県生駒市高山町8916-5、奈良先端科学技術大学院大学、日本分子生物学会 庶務幹事 小笠原直毅（Tel 07437-2-5430）まで郵送して下さい。
3. 葉書：申込受付確認のため返信用葉書に宛名を書いて同封して下さい。

注意：資料②を同封せずに応募される人がかなりあります。場合によっては受け付けできませんので、ご注意ください。

現在までに本学会宛に推薦依頼のあった各種賞・助成などの要項と締切日をご案内いたします。ご留意の上、適宜お申込み下さい。なお、本会への郵送は学会推薦の選考のため、この締切りの1か月前（厳守）に締切りますのでご注意ください。

国際生物学賞	国際生物学賞委員会 (03) 3263—1721 102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル, 日本学術振興会内	1 件	平成 6 年 6 月 30 日	賞状, 賞牌 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ, 世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者(本年度, 授賞分野は生物学)。
井上 学術賞	(財)井上科学振興財団 (03) 3477—2738 150 渋谷区猿楽町11-20	5 件以内 (1 件)	平成 6 年 9 月 20 日	1 件メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者(但し締切日現在満50歳未満)。
・第21回日産学術研究助成 ・第2回日産科学賞	(財)日産科学振興財団 (03) 3543—5597 104 中央区銀座6-17-2	・A数件 ・B~10件 ・C~25件 ・D~5件 ・8 件 (1 件)	平成 6 年 8 月 31 日	・A1000万円まで ・B1000万円まで ・C 200万円まで ・D 500万円まで ・賞状, メダル 500万円	自然科学分野で, それぞれの研究の成果が学術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと思われるもの, 新しい研究分野の開拓に貢献するもので, 45歳以下の研究者および研究グループ。
東レ 科学技術賞	(財)東レ科学振興会 (0473) 50—6103 279 千葉県浦安市美浜 1-8-1 東レビル	2 件前後 (2 件)	平成 6 年 10 月 7 日	1 件 賞状, 金メダル 500万円	学術上の業績顕著な者, 学術上重要な発見をした者, 重要な発明により効果が大きい者, 技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。
東レ科学技術研究助成	同 上	総額 1億3000万円 10件程度 (2 件)	平成 6 年 10 月 7 日	特に定めず最大3,000万円まで	理・工学分野で独創的, 萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。
・ブレインサイエンス財団研究助成 ・塚原仲見記念賞	(財)ブレインサイエンス振興財団 (03) 3273—2565 104 中央区八重洲2-6-20	・8 件 (1 件) ・1 件	平成 6 年 11 月 30 日	・1 件 100万円 ・1 件 200万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
・海外派遣研究助成 ・海外研究者招聘助成	同 上	・総額 150万円 ・総額 100万円	平成 7 年 1 月 11 日	・1 件 40万円まで ・1 件 40万円まで	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため, 国際学会, シンポジウム等への参加, あるいは研究者の派遣を助成。同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
木原記念財団学術賞	(財)木原記念横浜生命科学振興財団 (045) 721—0751 232 横浜市南区六ッ川 3-122-20	1 件	平成 6 年 9 月 30 日	賞状・記念牌 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行なっている国内の研究者で, 原則として50才以下の者。
・第11回持田記念学術賞 ・第12回研究助成 ・第11回国内および海外留学補助金	(財)持田記念医学薬学振興財団 (03) 3358—7211 160 新宿区四谷1-7	・2 件以内 (1 件) ・総額 4,200万円 ・総額 500万円	平成 6 年 7 月 31 日 平成 6 年 6 月 30 日 平成 6 年 6 月 30 日	・1 件 300万円 ・1 件 100万円 ・1 件 50万円	生命科学・薬物科学・情報科学・生体工学と医療応用の研究の分野における研究で, 顕著な功績であり, かつ新進気鋭の研究者。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 (03) 3985—3500 171 豊島区高田3-25-3	2 件以内 (1 件)	平成 6 年 9 月 10 日	金 牌 1,000万円	生命科学の栄養学, 薬学, 基礎および臨床医学, 社会医学で顕著な業績をあげ, 引き続き活躍中の研究者。

申請をご希望の方は念のため詳細を関係先へご照会下さい。() 内の件数は学会からの推薦枠。

◆日産科学振興財団研究助成プログラムの改訂について

当財団では設立以来主として資源・環境に関する自然科学の分野の研究を助成の対象とし、これまで助成のニーズに対応して部分的に助成プログラムを改訂してきました。平成6年4月に財団設立20周年を迎えるに当たり、助成に係わる社会情勢の変化を踏まえて次のとおり改訂する予定です。

■改訂の考え方

研究助成の視点として、①それぞれの課題に対する成果のほか、②研究者の成長ないし育成、③新しい研究領域の開拓など、一般的に3つの基準が考えられる。改訂に当たり、これらの視点を踏まえて募集や助成（申請）区分など一連の見直しをした。

■改訂の要点

◆特色の継承

設立以来主たる助成分野としてきた資源・環境に関する課題と民間財団として比較的大型助成を、財団の特色としてこれを基本的に踏襲した。

◆ニーズ型研究助成の再構成

人間と環境との相互作用に視点をおいて、「人間—自然環境系」と「人間—人工環境系」を軸に課題を再構築し、それぞれのテーマの全体像を明らかにする学際的総合研究として助成（申請）区分を新たに設定した。

◆シーズ型基礎研究の再編成

学術研究の動向や将来の科学技術の基盤となる分野に視点をおいて、これまで助成の対象としている「新しい機能材料」と「バイオサイエンス」は、物性とプロセスの開発ならびに生体の高次機能に関する新しい研究を加え、それぞれ範囲を若干拡大した。また、人間の特性として表現と理解を目的とする研究および境界領域の研究ならびに地球表層部における自然のメカニズムの理解を目的とする研究を対象とし、4つの分野に再編成した。

◆基礎研究における中堅・若手研究者の重視

これまでの一般研究(A)および(B)を統合し、一般研究として概ね45歳以下の研究者グループに対する助成を重視すると共に、従来の奨励研究を継続することにした。

◆海外共同研究助成の新設

日本人を代表研究者とするフィールドワークを主体にした環境に関する課題（人間—自然系における保全と調和・都市環境）で、成果や研究方法など現地への移転に視点をおいた研究体制を助成の要件とし、当面は東南アジア地域に限定する。

◆募集方法の改訂

課題や助成（申請）区分の再編成に伴い、直接公募方式の導入と従来の学協会推薦に加えて、推薦委員による募集を併用した。

◆その他助成「ワークショップ」の改訂

新しい研究領域の開拓という視点にたつて、学術研究の体系化を指向した助走段階における小規模の研究集会に対して援助する。

○申請区分と課題

総合研究

つぎに例示する課題について、総合研究としてその全体像を明らかにする自然科学と人文・社会科学との学際的研究を期待する。

1. 「人間—自然環境系」

人間と自然環境との共存に関する ①再生可能な自然資源の持続的利用と保全、②生態系の保全と自然復元、③自然観・自然認識の成立と変遷などに関する実証的研究

2. 「人間—人工環境系」

人工環境と人間生活との関わりを総合的に把握した ①都市環境の人間生活への影響と総合的環境管理、②人工物の適正な保全および再利用と廃棄処理、③科学技術のアセスメントと社会的受容などに関する研究

一般研究・奨励研究

つぎに例示する先駆的または萌芽的・独創的基礎研究を助成の対象とし、課題1については人文科学を含めた学際的研究を期待する。

1. 人間の特性の表現と理解およびこれを踏まえた境界領域の研究

2. 地球表層部における自然のメカニズムの理解を目的とした研究

3. 新機能材料の創製、独創的な物性および新プロセスに関する研究

4. 生命現象の理解に関する分子レベルならびに生体高次機能に関する研究

海外共同研究

現地の自然や生活文化を踏まえてつぎに例示するフィールドワークを主体にした、自然科学と人文・社会科学を含む学際的な研究を期待する。

1. 人間—自然系における自然環境の保全と人間生活との調和に関する研究

2. 都市環境の解析と改善に関する研究

○募集要項について

詳細については、平成6年度（第21回）募集要項を作成いたしますので、平成6年3月以降ご請求下さい。申請書の申込みは返信用切手を同封の上、申請区分を必ず明記して下記にお申込みください。

（一部190円、二部270円）

申込先：(財)日産科学振興財団

〒104 中央区銀座6-17-2

TEL 03-3543-5597

FAX 03-3543-5598

■助成プログラムの要約

助成区分	総合研究 ①	一般研究 ②	奨励研究 ③	海外共同研究 ④
研究の性格	学際的 共同研究	先駆的独創的 共同研究	萌芽的独創的 個人研究	学際的 調査研究
対象分野	2課題	4課題	同左	2課題
対象研究者	制限なし	中堅・若手研究者 概ね45歳以下	若手研究者 35歳以下	制限なし
助成金 (採択)	1000万円制度 (数件)	1000万円制度 (10件程度)	200万円制度 (25件程度)	500万円制度 (5件程度)
助成期間	2年	2年	1年	2年
募集方法	直接公募	推薦 (学協会・委員)	学協会推薦	直接公募 (委員推薦)

◆財団法人持田記念医学薬学振興財団各助成について

○第11回(平成6年度)持田記念学術賞候補者の推薦要領

1. 学術賞の対象

当財団は、生命科学を中心とする医学、薬学およびこれらに関連する物理学、化学、工学等の先見的、独創的研究を育成し、かつ、これらの成果を総合して医療に応用し、我国の医療および国民の保健向上に資することを目的としておりますが、その一環として次の4項目の分野における研究で、顕著な功績があり、かつ新進気鋭の研究者に持田記念学術賞を贈呈しております。

- (1) 生命科学と医療応用の研究
- (2) 薬物科学と医療応用の研究
- (3) 情報科学と医療応用の研究
- (4) 生体工学と医療応用の研究

2. 褒賞金の総額

300万円ずつ 2件以内

3. 候補推薦件数

1推薦者から1件といたします。

4. 推薦方法

推薦書に必要事項を記入して当財団あて送付して下さい。

5. 締切期日

平成6年7月31日(日) (当日の消印有効)

6. 選考の方法

平成6年9月に選考し、当財団理事会で決定いたします。

7. 褒賞金の贈呈

平成6年10月

○第12回(平成6年度)研究助成金、第11回(平成6年度)国内および海外留学補助金募集要項

研究助成金募集要項

1. 助成の趣旨

- (1) 生命科学と医療応用の研究
- (2) 薬物科学と医療応用の研究
- (3) 情報科学と医療応用の研究
- (4) 生体工学と医療応用の研究

上記の研究を助成し、もって我国の医療および国民の保健の向上に資することを目的とする。

2. 助成対象

下記の研究対象の領域に属する研究を国内において行い、所属する施設の主任教授、学部長あるいは施設長等の推薦を受けた者。

- (1) 生命科学と医療応用の研究
 - 1) バイオテクノロジーにより産生されるヒトに対して生理活性を有する物質に関する研究
 - 2) 免疫制御機構に関する研究(老化、免疫低下等を含む)
 - (2) 薬物科学と医療応用の研究
 - 1) 難治性疾患治療剤の研究
 - 2) 製剤学の研究
 - (3) 情報科学と医療応用の研究

循環器疾患の本態解明に関する情報科学
 - (4) 生体工学と医療応用の研究
 - 1) 心臓疾患の治療制御に関する研究
 - 2) 粒子線による診断と治療の研究
3. 研究助成金額
総額 4,200万円 1件につき100万円とする。

4. 研究助成金交付の対象となる経費
研究に要する物品の購入費用その他研究推進に必要な費用とする。

留学補助金募集要項

1. 補助対象
上記の研究助成金の趣旨と同じ研究を行い、所属する施設の主任教授、学部長あるいは施設長等の推薦を受け、平成6年4月1日より平成7年3月31日の間に開始し期間1年以上の、国内および海外留学を行う者。
2. 補助金額
総額500万円 1件につき50万円とする。
3. 補助金交付の対象となる経費
本人の渡航費および滞在費とする。
4. その他
受入機関の承諾書等の写しを添付のこと。(A4サイズ)

研究助成金および留学補助金共通事項

1. 応募方法
所定用紙に必要事項を記入し「書留郵便」で当財団あて送付する。
2. 締 切
平成6年6月30日(木)当日の消印まで有効。

3. 選考の方法
選考委員会により平成6年9月下旬に選考し、理事会で決定する。

4. 採否の通知
平成6年10月上旬に推薦者あて文書で通知する。
5. 助成金の交付
平成6年10月下旬に贈呈する。
6. その他
 - 平成5年度の助成金等贈呈者は、平成6年度の応募受付対象者とししない。
 - 平成6年度以降の助成金等贈呈者は、その後3年間を応募受付対象者とししない。
 - 応募者の年齢は満45歳未満(昭和24年7月1日以降に生まれた方)とする。
7. 所定用紙(申請書)請求手続きについて
申請書の区分、送付先住所、氏名、郵便番号、電話番号をご記入の上、葉書でお申込み下さい。
(応募には、未記入の当年度所定用紙を複写し用いてもよい)
8. 申請書提出先および問合せ先
財団法人持田記念医学薬学振興財団
〒160 東京都新宿区四谷1丁目7番地
TEL 03-3358-7211 (内線351、353)

◆各種会合のお知らせ

○講習会「生命の情報システムに学ぶ」のご案内

日 時：1994年6月21日(火) 9：25～16：50
会 場：ホテルアウォーナ大阪(公立学校共済組合なにわ会館)4階金剛(中、西)の間
〒543 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12
(TEL 06-772-1441)

プログラム：

挨拶 9：25～9：30
計測自動制御学会関西支部支部長 森 和弘
講義 9：30～11：00 生命と情報
東京工業大学生命理工学部 相澤 益男
11：10～12：40 脳・神経系の情報処理
三菱電機中央研究所 塩野 悟
13：30～15：00 遺伝・進化・免疫システムと情報
富士通研情報社会科学研究所 土居 洋文
15：20～16：50 人工知能から人工生命へ
ATR 人間情報通信研究所 ヤリ・ワリーオ
定 員：90名
参 加 費：主催・協賛学会会員12,000円、会員外15,000

円、学生3,000円(テキスト含む)
テキストのみ4,000円(送料込み)

申込締切日：6月4日(土)
申込方法：適当な用紙に氏名、勤務先(所在地、名称、部課名、電話番号)、連絡先、所属学協会名、送金方法、送金時期を明記の上、下記へお申込下さい。
申 込 先：〒530 大阪市北区西天満6-8-7
電子会館1階日本電気計測器工業会内
計測自動制御学会関西支部 講習会係
TEL 06-316-1741、
FAX 06-316-1751
送金方法：銀行振込(富士銀行大阪駅前支店 普通口座 352264 口座名義(株)計測自動制御学会関西支部)、現金書留または小為替(送金先は申込先と同じ)
問合せ先：申込先または
大阪府立大学工学部情報工学教室 河村嘉顯
TEL 0722-52-1161 ext 2289
FAX 0722-59-3340、
E-mail kawamura@sig.cs.osakafu-u.ac.jp

○1994年度講習会『脳・心・コンピュータ』のご案内

日時：1994年7月20日(水)～22日(金)

会場：社会文化会館

〒100 東京都千代田区永田町1-8-1

TEL 03-3592-7531

主催：日本物理学会

脳はコンピュータとまったく異なる計算原理の情報処理システムであり、且つ恐らく計算汎用性を有する。脳の情報処理の特徴は、まず第一に学習型である、ということである。この事がコンピュータとの大きな違いである。コンピュータは、人がプログラムとして与えた命令を忠実に実行する機械にすぎない。これに対し、脳は学習で知識を蓄えると共に学習で価値の基準を自己形成する。このようにして得た知識と価値基準をもとに、外部の情報を分析・判断し軽い推論を行って言動として出力する。さらに、この言動による出力結果をもとに、自分の持つ知識や価値基準を検討し、必要とあればこれらを変更する。このようにして学習によって脳内に表現されるものは、神経回路網とそこでの活動である。脳研究は、従って、神経細胞の基本的特性、神経細胞システムの結合(神経回路網)に関する構築、およびそこで演算・学習・記憶がどの様に神経活動として表現されるかを研究する。

脳の情報処理のもう一つの大きな特徴は、脳が外部情報を知識と価値の2つの面で独立に処理することである。知識情報は大腦皮質を中心に詳しく分析されるが、情報処理に要する時間は長い。これに対し、価値の判断は大脳辺縁系で行われ、情報処理時間は短い。この為、価値情報によって脳の活性が調節される。情報の価値の

自己判定を行う情報処理システムとしての脳の特長、さらに、価値の判断基準を学習によって自己形成するという特性が、心の特徴と密接に結び付いている。

本講習会では、脳を情報処理システムとしてみたとき、上記の立場から脳科学の現状について基礎的な面から第一線の研究者の人達に話をさせて頂く。また、脳の特長が心の有様と密接に結び付いているので、心の特性についてとりあげる。さらに、この様な脳と心のモデルについて見てゆき、学生、一般の方々に興味を持っていただける様配慮している。

聴講料(消費税込み)：

一般15,000円 会員10,000円 学生4,000円
日本物理学会賛助会員の団体に属する方および協賛学会の会員は、すべて本会会員と同じ聴講料とします。大学院生は学生料金が適用されます。

聴講者には講習会テキスト1部を7月上旬にお送りする予定です。なお、講習会テキストのみ御希望の方には、1部1,500円・送料300円(消費税込み)で頒布します。

定員：778名 先着順。定員に達し次第締め切ります。

申込先：(社)日本物理学会 講習会係

〒105 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館
211号室 TEL 03-3434-2671(代表)

聴講券：聴講申込者には聴講券をお送りしますので、受講の際は必ず御持参下さい。

世話人：川人光男(*)、郷 信広(京大・理)、
松本 元(*)

*講師欄参照

講習会担当理事：都 福仁(阪大・理)

プログラム：

日 程	講 義 題 目	講 師
<7月20日(水)>		
序 9:30-11:00	脳と心	伊藤 正男 理化学研究所国際フロンティア
1. 情動と学習・記憶の基礎		
11:00-12:30	海馬の神経細胞・神経回路と長期増強	加藤 宏司 山形大学医学部
14:00-15:30	海馬の神経構築と情報表現	飯島 敏夫 電子技術総合研究所
15:30-17:00	扁桃核と情動および海馬の認知・記憶関連神経細胞	小野 武年 富山医科薬科大学医学部
<7月21日(木)>		
2. 認知と学習・記憶の基礎		
9:30-11:00	脳の発達と可塑性	津本 忠治 大阪大学医学部
11:00-12:30	視覚・聴覚情報の認知過程	斉藤 秀昭 玉川大学工学部
14:00-15:30	脳から見た心	山鳥 重 東北大学医学部
3. 特別講演		
15:30-17:00	人とは何か—聖書からみた人(心)	田中 信生 興譲教会牧師・トータルカウンセリングスクール校長
<7月22日(金)>		
4. 認知・運動と学習・記憶の基礎とモデル		
9:30-11:00	神経細胞での演算と学習・記憶	宮川 博義 東京薬科大学薬学部
11:00-12:30	人工ニューロンと人工ニューロン回路の演算・学習・記憶	重松 征史 電子技術総合研究所
14:00-15:30	視覚認識とそのモデル	川人 光男 (株)ATR 人間情報通信研究所
15:30-17:00	脳とコンピュータ	松本 元 電子技術総合研究所

○第5回電子顕微鏡サマースクール1994のご案内

日本電子顕微鏡学会では究極の形態研究の発展のため、初心者から中堅までの若手研究者・技術者を対象に、サマースクールを開いております。今年も第一線の講師が「物質のナノ局在解析」の基本から最先端技術までを、実際の体験に基づき解り易く、明日からでもその技術を応用できるよう解説します。丸2日間講師と同じ釜の飯を食べ、自由に意見交換を行うことは、技術の習得のみならず、明日への研究の活力を高めるのに役立つものと期待しています。

また本年は、基本技術習得のため、「やさしい電顕ノウハウ講座」を設けると共に、日本電子顕微鏡学会の電子顕微鏡技術認定試験の問題とその解説をテキストに収録して受講者の便宜を図っております。

1. 日時：1994年8月3日(水)～5日(金)
2. 会場：栃木厚生年金休暇センター（東武日光線新鹿沼駅バス19分）
3. 主催：日本電子顕微鏡学会
4. プログラム：明日から出来る「物質のナノ局在解析」

—基礎のやさしい解説から先端技術まで—
 受講料：日本電子顕微鏡学会会員および賛助会員50,000円、非会員55,000円（申込と同時に入会した場合は会員扱いとなります）、学生35,000円

内容：受講料には2日間の宿泊費・食費、テキスト代（定価9,000円）が含まれます。テキストには平成5年度日本電子顕微鏡学会技術認定試験問題とその解説も収録されています。

申込先：「電顕サマースクール」事務局 〒329-04 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311 自治医科大学解剖学教室内 TEL 0285-44-2111、内線3112、FAX 0285-44-5243

問合せ先：申込先または(株)日本電子顕微鏡学会 〒113 東京都文京区駒込5-16-9 日本学会事務センター（係：山本）TEL 03-5814-5801、FAX 03-5814-5820

8月3日 [共通] 13:00～16:45	8月4日 [共通] 13:00～16:15
[基調講演] 1. 機能局を見る 校長：小川和朗（京大名誉教授） [トピックス講演] 2. 電子顕微鏡によるナノスペースの探索 飯島澄男（NEC 研究開発） 3. 電子線ホログラフィーによる磁束量子ダイナミックスの観察 松田 強・外村 彰（日立基礎研）	1. EELS の基礎原理と応用 及川哲夫（日本電子） 2. 生物試料の EELS 分析法 水平敏知（塩野義製薬研） 3. 分析電顕法を生命科学へ応用するには 二重作豊（北里大） 4. 分析カラー蛍光電子顕微鏡 小池紘民（東芝生技研）
8月3日 [交歓タイム] 16:45～22:00	8月4日 [交歓タイム] 16:15～22:15
1. ジャワertime 2. 地元の話 3. 歓迎夕食会 4. 自己紹介	1. リラックスタイム 2. 講師を囲む夕食会 3. Q & A 電顕像の生体内真偽の検討 近藤尚武（東北大） 広畑泰久（日医大）
8月4日 [生物] 8:00～12:15	8月5日 [共通] 8:00～12:00
1. 生物活性を見る—電顕細胞化学の実際— 瀬口春道（高知医大） 2. 電顕免疫細胞化学—原理と実際— 渡辺慶一（東海大） 3. In situ hybridization—原理と実際— 中根一穂（長崎大） 4. 糖の局在—検出の原理と実際— 平野 寛（杏林大）	[トピックス講演] 1. 超微細領域の分析のポイント 坂東義雄（無機材研） 2. 細胞内 Ca ²⁺ を見る 宮崎俊一（東女医大） 3. 電顕オートラジオグラフィーの基礎と応用 永田哲士（信州大）
8月4日 [非生物] 8:00～12:15	8月5日 13:00～16:45 【やさしい電顕ノウハウ講座】
1. 材料研究と電顕 平賀賢二（東北大） 2. 微小析出物，粒界偏析の解析法 佐藤 馨（NKK 基礎研） 3. 電子回折による局所構造解析法 友清芳二（九大） 4. 鉱物学における高分解能電顕法の応用とその課題 —バクテリア起源磁鉄鉱等を例に— 赤井純二（新潟大）	1. 「良い固定，悪い固定」 齋藤多久馬（自治医大） 2. 「脱水・包埋—目的に応じた脱水と樹脂包埋法」 宮沢七郎（北里大） 3. 「コントラストの高い電顕写真」 坂井建雄（順天大） 4. 個人指導

○第67回日本生化学会大会のご案内

日 時：1994年9月7日(水)～10日(土)
 会 場：大阪学院大学(吹田市岸辺)

第67回日本生化学会大会は1994年9月7日(水)より10日(土)までの4日間、大阪府吹田市にある大阪学院大学にて開催される運びとなりました。本大会は会場となる大阪学院大学側の都合と、同年の9月19日からインドにおいて開催されるIUBMB総会とを考慮して、会期を例年より約1カ月早くしました。

本大会における一般発表はポスターのみによることとしました。しかし、新しい試みとしてシンポジウム(18テーマ)以外にコロキウム、JB賞受賞者論文発表会(ポスターによる)、イブニングフォーラム、アフタヌーン

トークなどを取り上げることとしております。コロキウムは一般演題から一つのテーマにまとめて討論したほうがよいと思われる演題グループを大会の組織委員会で選択します(シンポジウムと重複しないテーマであれば、一つの種類番号にグループとして演題を申込み、あらかじめその旨、組織委員会に申し出ていただくことは可能です。ただし、採用か否かは組織委員会におまかせ願います)。この場合、発表は口演とし、一つのテーマについて3時間前後が割り当てられます。イブニングフォーラムの内容についてはすでに発表されているとおりです。特別講演(3題)、奨励賞受賞講演、モーニングレクチャー、テクニカルセミナーなどは従来どおり行われます。

大会スケジュールの概要

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
9月7日(水)	ポスター掲示												
	ポスター討論												
9月8日(木)	ポスター掲示												
	ポスター討論												
9月9日(金)	ポスター掲示												
	ポスター討論												
9月10日(土)	ポスター掲示												
	ポスター討論												

〔一般講演〕

原則としてすべてポスター発表で行います。

〔コロキウム〕

ポスター発表として申込まれた一般演題のなかから適当なテーマとしてまとめたものを選定してポスターではなく口頭発表にて行います。

〔特別講演〕

下記の方々を予定しております。

野村真康博士(カリフォルニア大学、アメリカ)

Edmond H. Fischer 博士(ワシントン大学、アメリカ)

Rudolf Jaenisch 博士(マサチューセッツ工科大学、アメリカ)

〔シンポジウム〕

シンポジウムは本大会の組織委員会にて検討の結果、下記のを企画することにしました。また、すべてのシンポジウムとも、演題の公募はいたしません。

1. 酵素機能の分子論—機能改変はどこまで可能か—
 世話人：谷沢克行(阪大・産研)、
 鏡山博行(大阪医大)、
 三井幸雄(長岡技科大)

2. DNA修復に関与するタンパク質
 世話人：田中亀代次(阪大・細生工セ)、
 関口睦夫(九大・生医研)
3. 生体物質の極限環境への応答
 世話人：大島泰郎(東工大・生命理工)、
 油谷克英(阪大・蛋白研)
4. 神経機能計測のための新しいテクノロジー
 世話人：志賀 健(阪大・医)、
 永井克也(阪大・蛋白研)
5. 遺伝子レベルにおける臓器特異性の決定機構
 世話人：中山建男(宮崎医大)、
 前田正知(阪大・産研)
6. 細胞ホメオスタシスとイオン・溶質輸送
 世話人：川喜多正夫(都臨床研)、
 乾 賢一(東医歯大・医)
7. 細胞内シグナリングの全容の解明に向けて
 世話人：西田栄介(京大・ウイルス研)
8. 植物ホルモンと器官形成
 世話人：今関英雅(名大・農)、
 中村研三(名大・農)

9. シトクロム P450 の生化学—ステロイドジェニックス P450 を中心に—
世話人：岡本光弘（阪大・医）、
石村 巽（慶大・医）
10. 中枢神経系ニューロンの発生分化機構
世話人：吉川和明（都神経研）
11. 免疫系における情報伝達とその異常
世話人：平野俊夫（阪大・医）
12. 大型放射光と中性子が拓く新しい構造生物学
世話人：徳永史生（阪大・理）、
佐藤 衛（阪大・蛋白研）
13. バイオミメティックケミストリーからスーパーバイオテクノロジーをめざして—化学と遺伝子工学・細胞工学の共生—
世話人：赤池敏宏（東工大・生命理工）、
関口清俊（大阪府母子医療セ・研）、
小宮山 真（東大・工）
14. 金属酵素タンパク質研究の最前線—構造と酸化還元機構との関連を中心として—
世話人：森島 績（京大・工）、
北川禎三（分子研）
15. タンパク質の立体構造形成と分子シャペロン
世話人：河田康志（鳥取大・工）、
伊藤維昭（京大・ウイルス研）
16. 分子モーターの構造と機能
世話人：毎田徹夫（長崎大・医）、
井上明男（阪大・理）
17. 新しい細胞機能制御系としてのユビキチンとプロテアソーム
世話人：田中啓二（徳島大・酵素研）、
山尾文明（国立遺伝研）
18. アポトーシスの分子機構とその生理作用
世話人：長田重一（大阪バイオ研）、
辻本賀英（阪大・医）

〔モーニングレクチャー〕

レクチャーは大会第2日（9月8日）、第3日（9月9日）、第4日（9月10日）に行う予定にしております。

〔イブニングフォーラム〕

フォーラムは新しい企画として第1日（9月7日）および第2日（9月8日）の午後6時から8時までの2時間開催することを予定しております。コーヒーなどを準備する予定で、肩のこらない討論や先輩方のお話を伺う楽しい会にしたいと考えております。なお公募したものを中心に企画しております。

〔テクニカルセミナー〕

恒例の企業との共催による生化学および関連領域における、研究方法論の最新の進歩に関するセミナーです。参加企業とテーマを公募中です。今回は2社による合同セミナーを含めて7件ぐらいのセミナーを企画することを目指しています。

参加費：

	参加登録費	懇親会費
一般	6,000円(8,000円)	8,000円(10,000円)
学生	4,000円(6,000円)	5,000円(7,000円)

平成6年7月11日(月)以前の登録費を示します。

() 内の中は当日受付の場合です。

〔本大会についての問合せ先〕

日本生化学会事務局：

〒113 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル3F

TEL 03-3815-1913、FAX 03-3815-1934

第67回大会事務局：

〒565 吹田市山田丘3番2号 大阪大学蛋白質研究所内

TEL (FAX 共通) 06-878-5762

または TEL 06-877-5111 (内線3884または3875)

○第45回タンパク質構造討論会のご案内

日 時：1994年9月11日(日)、12日(月)

会 場：〒565 豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル 5階サイエンスホール

(地下鉄北大阪急行千里中央駅下車5分；
Tel 06-873-2010)

共 催：日本化学会、日本生化学会、日本生物物理学会、日本薬学会、日本農芸化学会、日本分子生物学会、日本蛋白工学会（予定）

講 演：

1. 講演は断片的な研究発表ではなく、データがよく吟味されていて活発な討論の対象になり得るものに限り

ます。

2. 講演総数は約25件に限っております。

3. 1題の講演時間は、討論を含めて30～40分を予定しております。

参加費等：
参加費 3,000円（学生1,500円）
要旨集代 2,000円（送料込）
懇親会費 4,000円（学生2,000円）
(いずれも予定)

申込みおよび連絡先：

〒565 吹田市山田丘3番2号

大阪大学蛋白質研究所

蛋白質溶液学部門

高木 俊夫

TEL 06-877-5111 (内線3856)

FAX 06-876-2533 (事務室着信)

○ワークショップ「DNA複製と染色体分配」のご案内

日 時：平成6年10月1日(土)～3日(月)

場 所：金沢シティモントホテル

(金沢市橋場町2-10)

主 催：ワークショップ「DNA複製と染色体分配」
準備委員会

後 援：(財)東洋紡百周年記念バイオテクノロジー研究財団

文部省科研費重点領域研究「細胞複製制御の分子生物学的研究」

本年度は第10回DNA複製ワークショップと、第12回東洋紡バイオテクノロジーワークショップを同時開催し、海外からの招待講演者を交えての国際ワークショップと致します。

招待講演：海外からの招待講演者

S. J. Austin (USA)

C. S. Newlon (USA)

J. Carbon (USA)

M. O'Donnell (USA)

L. Clark (USA)

B. Stillman (USA)

P. R. Cook (UK) B. Tye (USA)
D. Koshland (USA)

国内からも約10名の講演者を予定しています。
一般発表：主としてポスター発表として公募します。
申込方法：参加御希望の方は、事務局宛に案内書を請求
してください。

申込締切：英文要旨と参加（宿泊）申込の締切りは、8
月10日（水）です。

準備委員代表 岡崎恒子

連絡先（事務局）：〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学理学部分子生物学科
TEL 052-789-2986

（担当：升方久夫）

FAX 052-789-3001

電子メール

i45034a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp

○第10回細胞内蛋白質分解に関する国際会議 （第10回 ICOP 会議）のご案内

日時：1994年10月30日（日）～11月3日（木）

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

〒102 東京都千代田区九段北4-2-25

主催：第10回 ICOP 会議組織委員会

主要議題：

- 1) プロテアーゼとインヒビターの分子構造と作用機
構
- 2) 蛋白質分解の分子機構と生理機能
- 3) 細胞機能におけるプロテアーゼ・インヒビター作
用
- 4) 病態とプロテアーゼ・インヒビター作用
- 5) 新しいプロテアーゼ・インヒビター研究

などに関する講演とポスター発表を行います。講演は招
待講演が中心ですが、ポスター発表は広く公募します。
ポスターの中からも講演者を選択しますので奮ってポス
ター発表にご応募下さい。

登録・ポスター募集締切：平成6年8月31日（水）

参加費：35,000円（8月31日まで）

40,000円（9月1日以降）

会議使用語：英語

問合せならびにセカンドサーキュラー請求先：

〒113 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学分子細胞生物学研究所 鈴木紘一

TEL 03-3812-2111 内線7820

FAX 03-3813-0654（直通）

○第10回形態科学シンポジウムのご案内

日時：1994年11月19日（土）13：00～17：00

会場：東京大学山上会館（本郷キャンパス内）

主催：日本学会議解剖学研究連絡委員会

主題：生物科学の躍進と形態科学の新しい展開

目的：遺伝子化学を軸とする生物科学の方法論を学
び、形態学に新しい生命を吹き込もうとして
いる若い研究者たちの心意気を紹介する。

プログラム：

第I部 13：00～15：00 座長 外崎 昭

1. 岡村康司（東京大学医学部脳研・神経生物）

ホヤ胚初期発生と膜興奮性発達の分子機構

2. 岡本 仁（慶応義塾大学医学部生理）

ゼブラフィッシュを使った脊椎動物神経細胞分化
機構の解析

3. 岡野栄之（東京大学医科研・化学）

ショウジョウバエ神経系の発生・分化を制御する
遺伝子群の同定と哺乳類神経系への応用

4. 後藤 薫（東北大学医学部解剖）

リン脂質性セカンドメッセンジャー代謝酵素ジア
シルグリセロールキナーゼの分子多様性と発現局
在

第II部 15：00～17：00 座長 広川信隆

5. 重本隆一（京都大学医学部高次脳形態）

グルタメート受容体の局在と機能

6. 島田昌一（大阪大学医学部解剖）

脳に発現するトランスポーターの遺伝組織化学

7. 佐藤玲子（東京大学医学部解剖）

キネシンの分子構造と遺伝子分析

8. 倉岡晃夫（九州大学医学部解剖）

ギャップ結合の分子構造

閉会の言葉 解剖学研究連絡委員長（第16期会員）

講師を囲む懇談会：シンポジウム終了後、山上会館内レ

ストランにて、講師と出席者の懇談の場を持

ちたいと存じます。会費5,000円程度（各自

負担、講師はご招待）を予定しています。

〈事務局〉外崎 昭、山形大学医学部解剖学第1講座、

〒990-23 山形市飯田西2-2-2、

TEL 0236-33-1110、

FAX 0236-25-8969

○日本癌学会シンポジウムのご案内

日 時：1994年11月26日(土) 9:00~17:15
 会 場：日本薬学会長井記念ホール (東京・渋谷)
 主 催：日本癌学会
 プログラム：
 「癌の遺伝子診断～遺伝性腫瘍から非遺伝性
 腫瘍での臨床応用まで～」

世 話 人：湯浅保仁 (東京医歯大・医)、
 平井久丸 (東大・医)

参 加 費：無料
 連 絡 先：〒113 東京都文京区湯島1-5-45 東京医科
 歯科大学医学部衛生学 湯浅保仁
 TEL 03-3813-6111 ext 3172
 FAX 03-3813-0852

演 題	演 者	所 属
はじめに (座長：吉田 光昭)	高久 史磨	国際医療センター 東大・医科研
I. 遺伝子診断法—最近の進歩	林 健志	九大・遺伝情報験
II. 高発癌性遺伝病		
1. 優性高発癌性遺伝病と癌抑制遺伝子の新知見	中村 祐輔	癌研
2. 網膜芽細胞腫の遺伝子診断 (座長：村松 正實)	佐々木正夫	京大・放生研セ 埼玉医大
3. 家族性大腸ポリポージスの遺伝子診断	堀井 明	癌研
4. ウィルムス腫瘍の遺伝子診断	山田 正夫	国立小児医療センター研
5. 劣性高発癌性遺伝病の遺伝子診断	田中亀代次	阪大・細胞セ
III. 非遺伝性腫瘍での臨床応用 (座長：井川 洋二)		
1. 発癌物質と遺伝子変異	長尾美奈子	東京医歯大・医 国立がんセンター
2. 癌原物質の代謝と発癌感受性	渡辺 民朗	東北大・加齢研
3. 染色体異常と遺伝子診断 (座長：北川 知行)	平井 久丸	東大・医 癌研
4. 前癌病変の遺伝子異常と発癌多段階説	湯浅 保仁	東京医歯大・医
5. 転移能に関連する遺伝子変異	横田 淳	国立がんセンター
6. 癌悪性度の遺伝子診断 (座長：塚越 茂)	広橋 説雄	国立がんセンター 癌研
7. 化学療法と遺伝子異常—MDR 遺伝子を中心として	鶴尾 隆	東大・分子細生研
8. 遺伝子変異と臨床の予後	上田 龍三	愛知がんセンター

○第1回アンチセンス国際会議
(First International Antisense Conference of Japan)のご案内

Period: December 4-7, 1994
 Site: Kyoto International Conference Hall
 (Kyoto, Japan)

Deadline for Submission of Title:
July 10, 1994

Deadline for Accepted Abstracts:
October 15, 1994

Organized by:
 Committee for the
 Antisense DNA/RNA Research Association, Japan

For Scientific Inquiries:
 Prof. Akira Murakami
 Kyoto Institute of Technology
 Dept. of Polymer Science & Engineering

Matsugasaki, Sakyo-ku
 Kyoto 606, JAPAN
 Tel/Fax: +81-75-724-7814

INVITATION
 Dear Colleagues and Friends,
 On behalf of the Committee for the Antisense DNA/
 RNA Research Association, Japan, it is a great pleasure
 to invite you to attend the *First International Antisense
 Conference of Japan*, to be held from December 4 to 7,
 1994, in Kyoto. This Conference will cover the latest
 findings in this field and include plenary and invited lec-
 tures, as well as oral and poster presentations. For the
 further promotion of international cooperation and
 friendship, this Conference will be held in conjunction
 with the 4th Japanese Antisense Symposium, as a
 follow-up to the NAMA Conference held in Cancun,
 Mexico in February 1993.

Eiko Ohtsuka, PH.D.
 Hokkaido Univ.

CONFERENCE INFORMATION

Date: December 4-7, 1994
Place: Kyoto International Conference Hall
Language: The official language of the Conference is English. Simultaneous translation will not be provided.

SUGGESTED TOPICS

- A. Molecular design of antisense DNA/RNA
- B. Antisense strategy
- C. Triplex/Antigene
- D. *In vitro/in vivo* applications of antisense DNA/RNA
- E. *Ribozymes*
- F. *Molecular biology/Gene regulation*
- G. *Gene therapy*
- H. *Medical applications*
- I. *Others*

PLENARY LECTURES (Tentative)

Alan M. Gewirtz (USA)
 Claude Hélène (France)
 Masayori Inouye (USA)
 Junichi Tomizawa (Japan)

CALL FOR PAPERS

Persons interested in presenting a paper at the Conference should submit the TITLE of their paper to the Secretariat by **July 10, 1994**. If your title is accepted, you will be asked to submit an abstract of your paper to the Secretariat by **October 15, 1994**. For further details and the title submission card, please refer to the Second Circular which will be sent at the end of March or beginning of April.

○千里ライフサイエンスシンポジウム
「AIDS—From Molecular Biology to Treatment—」のご案内

日時：平成6年8月4日(木) 10:00~17:40
場所：千里ライフサイエンスセンタービル5階
ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)
(大阪府豊中市新千里東町1-4-2)

主催：財団法人千里ライフサイエンス振興財団
日本ウエルカム株式会社

協賛：株式会社千里ライフサイエンスセンター
コーディネータ：大阪大学微生物病研究所教授

栗村 敬

プログラム

1. Global Epidemiology of HIV and Needs for Treatment
Subhash K. Hira
(Mahatma Gandhi Mission Medical College, India)
2. HIV Pathogenesis
Ashley T. Haase
(University of Minnesota Medical School, USA)
3. Interaction of Viral Gene Products with Cytokines
Tadamitsu Kishimoto
(Osaka University Medical School, Japan)
4. Molecular Approaches for HIV Therapy
Flossie Wong-Staal
(University of California at San Diego, USA)
5. Molecular Basis and Clinical Significance of HIV Drug Resistance to Antiviral Nucleosides
Mark Wainberg
(McGill University, Canada)
6. Retroviruses in Human Diseases: Special Aspects of Pathogenesis and Some New Approaches to Their Control
Robert C. Gallo
(National Cancer Institute, USA)

受講料 (講演要旨集含む)

会 員(ただし、大学、官公庁、主催・協賛団体会員) : 6,000円
 非会員 : 8,000円
 学 生 : 3,000円

定 員：200名

参加申込方法：①氏名、②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX 番号を明記の上、郵便または FAX で下記宛お申込み下さい。参加費は申込後に住友銀行千里中央支店普通預金 No. 128278・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛お振込下さい。なお振込の際振込者名の前に「V」とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付いたします。

申 込 先：(財)千里ライフサイエンス振興財団

「AIDS」シンポジウム係

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL. (06)873-2001

FAX (06)873-2002

担当：近藤・堀木・森田

平成6年度予算(案)決定

平成6年3月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、第16期の会員推薦関係費、アジア学術会議開催経費などを計上した平成6年度予算及び最近公表された「調査報告 我が国における学術団体の現状」等についてお知らせします。

平成6年度日本学術会議予算

平成6年度日本学術会議の予算額は、総額で12億128万7千円で閣議決定されました。前年度と比較して1億546万円の増。率にして9.6%の伸びです。これは、平成6年度が第16期の会員推薦期に当たり、会員の推薦に必要な経費、臨時総会及び臨時部会等の会員推薦関係費が8,048万1千円増額し1億5万5千円になったことが主な事由です。

また、アジア学術会議の開催に必要な経費が、前年度に引き続き2,219万5千円が認められました。

その他、平成6年度予算では、国際分担金の16団体に対する単位額の変更が認められ、国際会議の国内開催については、神経・筋、園芸学、錯体化学、心電学、情報ドキュメンテーション、病態生理学の6国際会議の開催を予定しています。

また、世界各地で開催される学術関係国際会議への代表派遣や二国間交流に必要な経費が計上されています。

平成6年度予算概算決定額表は、下表のとおりです。

(単位：千円)

事 項	前年度 予算額 A	平成6年度 予算額 B	比較増 △減額 C = B - A	備 考
日本学術会議の運営に必要な経費	1,095,827	1,201,287	105,460	対前年度比較 109.6%
審議関係費	265,525	272,534	7,009	○地球圏－生物圏国際協同研究計画 (IGBP)シンポジウム, 公開講演会等
国際学術交流関係費	221,254	226,646	5,392	
国際分担金	74,722	67,450	△ 7,272	
国内開催	73,543	86,172	12,629	
代表派遣	44,006	44,006	0	
二国間交流	6,823	6,823	0	
アジア学術会議	22,160	22,195	35	
会員推薦関係費	19,574	100,055	80,481	
会員推薦管理会	19,102	21,632	2,643	
推薦経費	472	57,629	57,393	
臨時審議経費	0	21,007	21,007	○第16期推薦経費
一般事務処理費	589,474	602,052	12,578	○臨時総会、臨時部会

第4 常置委員会報告—調査報告 我が国における学術団体の現状(要旨)

平成6年1月26日

学会協会等の学術団体は各専門分野の学術の進展において重要な役割を果たしており、加えて、日本学術会議の会員候補者を推薦し、また、研究連絡委員会に委員を送るなど、日本学術会議の基盤となっています。第4常置委員会は、学術団体の活性化・活動強化等のための支援方策を検討するに当たって、学術全分野における学術団体の現状を知る必要を認め、調査を行いました。調査票は選択肢方式の9項目44設問にわたる詳細なものでありましたが、調査対象とした日本学術会議広報協力学術団体1069団体の70%にあたる750団体から回答を得ました。分析結果を対外報告「調査報告 我が国における学術団体の現状」として今回公表しました。

報告書は、(1)専門分野、(2)会員、(3)設置形態と組織形態、(4)活動状況、(5)国際性、(6)財政状態、(7)学術団体の属性にみる専門分野の類似性、(8)学術団体への支援について、及び「附属資料」よりなっています。報告では、学術団体の諸属性を、全団体平均に加えて、専門分野別と団体規模別に比較しています。63頁にわたる報告書の内容を簡潔に要約することは困難ですが、以下にその一端を紹介します。

学術団体の数は文学系及び医学系の分野で多く、法学系及び経済学系で少ない。2つ以上の専門分野にまたがる団体の割合は文学系及び医学系で少なく、理学及び工学で多い。平均正会員数は全団体平均で約2.5千人、人文科学部門で0.7~1千人、理学及び農学で1.7~2.5千人、工学及び医学系では約4千人である。

全団体の約20%が法人である。法人の割合は団体の規模の増大とともに急速に増加する。工学において特に高く、人文科学部門で低い。フルタイムに換算した事務職員数は正会員数に比例し、全団体平均でみれば正会員千人あたり0.71人である。事務所面積は正会員数に比例し、全団体についてみれば、基本面積が27㎡で、正会員千人あたり1.7㎡である。

会誌の発行は最も普遍的な活動で95%の団体に見られる。人文科学部門ではやや低く、理学及び工学においてやや高い。論文誌の発行は約27%の団体で行われており、経済学系、理学及び工学において割合が高い。書籍の出版は15%の団体で行われており、理学、工学及び農学で高い。その他の活動のうち、社会人教育は19%の団体で行われており、理学及び工学に多く、経済学系及び医学系で少ない。

国際集会を主催した経験をもつ団体は51%である。団体の規模が大きいほどその割合は高い。専門分野別で見れば、文学系及び法学系において低く、理学、工学及び農学で高い。国際集会を開催する上での困難の第1位は「経費の調達」で84%に達している。会誌あるいは論文誌を何らかの意味で国際的に開放しているのは85%の団体にみられる。

団体の財政規模を正会員数で割った額は全団体平均で29千円で、文学系及び経済学系において10~15千円、理学及び工学で高く48~57千円に達する。平成3年度における実質収支(繰り越しを除く)での赤字団体は全体の約3分の1であり、予算規模の10%以上の赤字をもつ団体が7%ある。外部からの支援を必要とする事業は、成果刊行が最大で60%、次が国際活動で30%である。団体の規模が大きくなると、国際活動への支援要求の割合が高まる。具体的な支援方策としては、学術団体の活動が円滑に進むよう制度等を整備する方法、特に、学術団体に対する課税及び学術団体への寄付者への課税を緩和する方策が効果的と考えられる。

終わりに、この調査に御協力を頂いた学術団体の担当者の方々に深く感謝申し上げる次第です。

第16期日本学術会議会員のための 登録学術研究団体の概況

日本学術会議では、現在、第16期(平成6年7月22日~平成9年7月21日)会員(定員210人)選出のための手続が進められていますが、その第1段階として、昨年(平成5年)5月末日を締切期限として、学術研究団体からの登録申請の受付が行われました。これらの登録申請については、日本学術会議会員推薦管理会において審査が行われましたが、その結果は次のとおりでした。

- ・申請団体数……………1110団体
- ・登録団体数……………1069団体

「日本学術会議だより」について御意見、お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

次期評議員選挙と会員名簿について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条によって第9回評議員選挙が12月に行われます。この選挙のための会員名簿が今年7月31日現在のデータをもとに発行される予定ですので、勤務先や住所の異動があった場合は速やかに事務局（下記）までお知らせ下さい。

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センター C 21
財団法人日本学会事務センター内 日本分子生物学会
会員業務 TEL : 03-5814-5810、FAX : 03-5814-5825
学会業務 TEL : 03-5814-5801、FAX : 03-5814-5820

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第48号（1994年6月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター関西

財団法人日本学会事務センター 大阪事務所